



九州大学記者クラブ会員 各位

## 第5回（平成20年度）日本学術振興会賞を小江教授が受賞

我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるため、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を支援していくことを目的として創設された日本学術振興会賞の第5回（平成20年度）受賞者として、本学未来化学創造センター小江 誠司 教授が選ばれましたのでお知らせいたします。

なお、本件については、独立行政法人日本学術振興会より平成21年1月30日付で報道発表されております。受賞理由など詳細については、別紙の資料をご参照願います。

### 【参考：表彰式】

開催日：平成21年3月9日（月）

場 所：日本学士院（東京都台東区上野公園7-32）

### 【お問い合わせ先】

- ◆九州大学未来化学創造センター 教授 小江 誠司  
福岡市西区元岡 203-1 福岡市産学連携交流センター108号室（CREST 研究ラボ）  
電 話：092-802-6980  
E-mail：ogo-tcm@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp
  
- ◆九州大学学術研究推進部学術研究推進課 松尾  
電 話：092-642-2131  
F A X：092-642-7090  
E-Mail：kissomu@kyushu-u.ac.jp

平成21年1月30日  
総務部研究者養成課

## 日本学術振興会賞の受賞者決定(24名の若手研究者に授賞)

日本学術振興会(理事長 小野元之)は、平成20年11月18日(火)開催の日本学術振興会賞審査会(委員長 江崎玲於奈)の選考に基づき、日本の学術研究の将来のリーダーと期待される日本学術振興会賞受賞者24名を決定しましたので、お知らせいたします。

### 1 日本学術振興会賞について

本賞は、将来の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッシュな研究者をいち早く顕彰することにより、今後の研究にチャンスを与えブレークスルーを促そうとするものです。

選考は、世界トップレベルの研究者である江崎玲於奈、小柴昌俊、野依良治先生などにより構成される審査会で厳正な審査が行われ、受賞者が決定されました。

### 2 受賞者について

今回の受賞者として、人文科学から自然科学までのあらゆる分野を対象としている本賞ならではの研究者24名に授与されます。

人文社会科学系では、元朝モンゴル帝国治下における中国文化を調査し、特に当時の書物の出版に着目することで、モンゴル朝廷が前代の中国の文化を受け継ぎ、発展させて今日の中国文化の形成に決定的な役割を果たしたことを跡づけることで、これまで中国文化の破壊の時代とみなされていた元代の歴史認識を一変させる新たな視点を提示した研究者等が選考されました。

自然科学系では、哺乳類における体細胞クローン作出法の国際的スタンダードを確立し、ES細胞を用いて不妊のマウスに仔を得ることに成功するなど、動物繁殖における革新的な可能性を提示した研究者等が選考されました。

なお、日本学士院において、これら24名の日本学術振興会賞受賞者の中から、日本学士院学術奨励賞の受賞者が選ばれることとされています。

### 3 授賞式について

平成21年3月9日(月)に日本学士院(東京都台東区上野公園7-32)において、日本学術振興会賞および日本学士院学術奨励賞の授賞式が同時に行われる予定です。

(お問い合わせ)

独立行政法人日本学術振興会総務部研究者養成課

課長 大城 功、課長代理 佐々木 康晴

電話： 03-3263-4934、1736 (直通)

## 第5回（平成20年度）日本学術振興会賞受賞者一覧

系別	受賞者氏名（性別）(年齢)	現職機関 職名	授賞の対象となった研究業績
人社系	アリタ シン 有田 伸 (男)(38)	東京大学 大学院総合文化研究科 准教授	教育と社会階層の日韓比較社会研究
	ナカイ アサコ 中井 亜佐子 (女)(41)	一橋大学 大学院言語社会研究科 准教授	英語圏文学とポストコロナル批評
	フルサワ タイジ 古澤 泰治 (男)(44)	一橋大学 大学院経済学研究科 教授	国際政治経済学へのゲーム理論的アプローチ
	ミヤ ノリコ 宮 紀子 (女)(36)	京都大学 人文科学研究所 助教	モンゴル時代の文化政策と出版活動
理工系	イトウ コウハイ 伊藤 公平 (男)(42)	慶應義塾大学 理工学部 教授	半導体同位体工学の創出
	イノウエ クニオ 井上 邦雄 (男)(42)	東北大学 大学院理学研究科 教授	原子炉を用いたニュートリノ振動の精密測定
	イノウエ マサユキ 井上 将行 (男)(37)	東京大学 大学院薬学系研究科 教授	海洋環状ポリエーテル類の全合成研究
	ウエダ マサヒト 上田 正仁 (男)(44)	東京大学 大学院理学系研究科 教授	冷却原子気体の理論
	オゴウ セイジ 小江 誠司 (男)(44)	九州大学 未来化学創造センター 教授	水溶性金属アクア錯体を用いた水中・常温・常圧での水素分子の活性化
	コバヤシ ナオキ 小林 直樹 (男)(39)	東北大学 大学院情報科学研究科 教授	ソフトウェア検証のための型理論
	ソメヤ タカオ 染谷 隆夫 (男)(39)	東京大学 大学院工学系研究科 准教授	有機トランジスタの基礎と大面積フレクトロニクスへの応用に関する研究
	ツジ タケシ 辻 雄 (男)(40)	東京大学 大学院数理科学研究科 准教授	p進ホッジ理論とその応用
	ツジ ノブヒロ 辻 伸泰 (男)(42)	大阪大学 大学院工学研究科 准教授	超微細粒金属材料に関する研究
ノトミ マサヤ 納富 雅也 (男)(44)	日本電信電話株式会社 NTT物性科学基礎研究所 主幹研究員	フォトリック結晶中の新奇な物理現象の探索とその応用	
ヒロセ ケイ 廣瀬 敬 (男)(40)	東京工業大学 大学院理工学研究科 教授	超高压高温下における地球惑星内部物質の実験的研究	
生物系	カツノ マサヒサ 勝野 雅央 (男)(37)	名古屋大学 高等研究院 特任講師	神経変性疾患の病態解明および治療法開発
	コイズミ シュウイチ 小泉 修一 (男)(44)	山梨大学 大学院医学工学総合研究部 教授	グリア細胞による脳機能の制御
	サワムラ タツヤ 沢村 達也 (男)(44)	国立循環器病センター 脈管生理部 部長	循環器疾患克服に向けた血管機能異常の分子機構解明
	シラヒゲ カツヒコ 白髭 克彦 (男)(43)	東京工業大学 大学院生命理工学研究科 教授	ゲノム情報を基盤とした染色体解析技術の確立とその応用
	トリイ ケイコ 鳥居 啓子 (女)(42)	ワシントン大学 生物学部 アソシエイトプロフェッサー	植物の気孔のパターン形成と分化のメカニズムの解明
	ヌレキ オサム 濡木 理 (男)(42)	東京大学 医科学研究所 教授	遺伝暗号翻訳の動的機構の構造基盤
	ヤナギサワ ジュン 柳澤 純 (男)(44)	筑波大学 先端学際領域研究センター 教授	細胞のエネルギー恒常性を調節する分子機構の研究
	ヨシムラ タカシ 吉村 崇 (男)(38)	名古屋大学 大学院生命農学研究科 教授	春を感知するウズラの生物時計の仕組み
	ワカヤマ テルヒコ 若山 照彦 (男)(41)	理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター チームリーダー	バイオテクノロジーによる新たな動物繁殖技術の開発

※所属機関・職名は平成21年1月1日現在、年齢は平成20年4月1日現在

# 日本学術振興会賞の概要

－優れた若手研究者の顕彰・支援－

## 1. 事業の趣旨

我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を支援していく必要がある。この趣旨から日本学術振興会は、平成16年度に日本学術振興会賞を創設した。

## 2. 対象分野

人文・社会科学及び自然科学の全分野とする。

## 3. 受賞条件

国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち、平成20年4月1日現在以下の条件を満たす者とする。

- (1) 45歳未満であること
- (2) 博士の学位を取得していること（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む。）
- (3) 外国人の場合は推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定していること（なお、日本国籍を有する者の場合はこの条件を問いません。）

## 4. 推薦権者

- 1) 我が国の大学等研究機関の長（機関長推薦）
- 2) 優れた研究実績を有する我が国の学術研究者（個人推薦）

## 5. 選考方法

日本学術振興会に設置する審査会において選考する。

なお、審査会は選考するに当たって、学術システム研究センターに意見を求めることができる。

## 6. 授賞等

授賞数は毎年度20件程度とし、受賞者には、副賞として研究奨励金110万円を贈呈する。日本学術振興会賞受賞者の中から特に優れた者6名以内に、日本学士院学術奨励賞が授与される。

また、授賞式は日本学士院を会場として行う。

7. 平成20年度（第5回）推薦状況

平成20年度(第5回)			前回からの候補者※1	合計※2
機関推薦	個人推薦	計		
196人(230人)	21人(27人)	214人(255人)	160人(160人)	374人(415人)

※1 本賞の推薦書は2年間有効であり、前回の被推薦者から受賞者及び当該年度の4月1日時点で45歳を超える者を除いた者を審査対象者とする。

※2 合計は重複推薦を除く。

※3 ( )内は、前回の人数

8. 第5回（平成20年度）日本学術振興会賞日程

推薦依頼	平成20年4月10日
推薦書受付	平成20年5月28日～29日
予備審査 (学術システム研究センター)	平成20年6月上旬～10月下旬
審査会	平成20年11月18日
受賞者決定報道発表	平成21年1月30日
授賞式	平成21年3月9日

9. 日本学術振興会賞賞牌

このメダルは、形態の基本となる円、三角形、正方形を重ね合わせ「創造」を表現し、その中心に日本学術振興会のマークである長鳴き鳥を配することで、世界トップレベルの研究を発信するという趣旨のデザインをしました。

(デザイン: 東京芸術大学教授 飯野 一朗)



# 日本学術振興会賞審査会委員名簿

氏名（所属機関・職）

委員長 江崎 玲於奈(茨城県科学技術振興財団理事長/横浜薬科大学学長)  
石井 米雄(アジア歴史資料センター長)  
伊東 光晴(京都大学名誉教授)  
金澤 一郎(宮内庁皇室医務主管/日本学術会議会長)  
郷 通子(お茶の水女子大学長)  
小柴 昌俊(東京大学特別荣誉教授、平成基礎科学財団理事長)  
鈴木 昭憲(東京大学名誉教授)  
外村 彰(日立製作所フェロー)  
中西 重忠(大阪バイオサイエンス研究所所長)  
野依 良治(理化学研究所理事長)  
本田 和子(お茶の水女子大学名誉教授)  
増本 健(東北大学名誉教授)  
森 重文(京都大学数理解析研究所教授)

(敬称略)

## 小江 誠司 (オゴウ セイジ)

(OGO Seiji)



生 年 1963年 出 身 地 広島県

現 職 九州大学未来化学創造センター 教授  
(Professor, Center for Future Chemistry, Kyushu University)

専 門 分 野 錯体化学

略 歴 1991年 東京理科大学理学部卒  
1993年 東京理科大学大学院理学研究科修士課程修了  
1996年 総合研究大学院大学数物科学研究科博士課程修了  
1996年 博士(理学)の学位取得(総合研究大学院大学)  
1996年 岡崎国立共同研究機構分子科学研究所助手  
2001年 名古屋大学物質科学国際研究センター助手  
2002年 大阪大学大学院工学研究科助教授  
2005年 九州大学未来化学創造センター教授(現在に至る)

### 授 賞 理 由

「水溶性金属アクア錯体を用いた水中・常温・常圧での水素分子の活性化」

(Hydrogen-Activation with Water-Soluble Metal-Aqua Complexes in Water under Ambient Conditions)

将来のクリーンエネルギー源として水素が注目されている。水素分子からの電気エネルギーの取り出しは、分子を陽イオンと陰イオンに解離させる反応を通して行われ、触媒としては通常白金が用いられている。しかし、資源的な問題から、白金以外の触媒の開発が緊急の課題であった。小江誠司氏は、この触媒機能を持つアクア金属錯体の開発に、世界に先駆けて成功した。

同氏の開発したアクア金属錯体はニッケルや鉄を中心金属とする錯体である。この錯体を触媒として水中・常温・常圧という極めて温和な条件下で、錯体の水配位子を水素分子と置換させることで、高効率でプロトン( $H^+$ )とヒドリドイオン( $H^-$ )に開裂させることに成功した。さらに、反応で生成する低原子価ヒドリド錯体等の中間体を単離し構造を決定することにより、水中での触媒の関与した水素分子の活性化機構を解明した。このように、同氏は、「水中・常温・常圧での水素分子の活性化」というクリーンエネルギー変換システム実現への新しい道筋を提示した。

同氏の業績は、化学、環境、エネルギーの分野において、基礎的研究を実用的応用に結びつける上で極めて重要な貢献を果たすものとして期待される。